



全難聴便り

発行:事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町 14-5 MSビル市ヶ谷台1F
編集:全難聴事務局
電話:03(3225)5600
FAX:03(3354)0046
URL:<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail:zennacho@zennancho.or.jp

📌 情報保障に関する選挙制度の現状について

公職選挙法の一部を改正する法律が、平成28年5月13日（金）施行され、今回の参議院選挙に初めて適用されました。

これまで、公職選挙法では、事務員、ウグイス嬢、手話通訳者に対しての報酬が定められてきましたが、これを要約筆記者にも解禁し、適用するという内容です。

これまで公職選挙法では、要約筆記者への報酬が認められていなかったのが、一步進んだと考えることはできます。しかしながら、街頭演説会の全体投影ができないことや、そもそも中立な通訳者である要約筆記者が、有権者に候補者をアピールする運動員と同じ立場で報酬を得ることがいいのかという疑問は残ります。

加えて、重要な情報源である、テレビの政見放送での字幕付与についての整備は、まだまだです。

今回の参議院選挙では、比例代表の政見放送では実施されましたが、選挙区の政見放送には字幕付与は認められていません。

これは、放送事業者の体制、技術的な問題など、放送地域による機材対応の格差を配慮することと説明されています。しかし最近の技術の進歩を考慮して、全難聴として報酬設定とは別に要求していくつもりです。

全難聴情報文化部長である小川理事のコメントを添付します。

本件、全難聴の従来からの課題でしたが、特に京都府難聴者協会の積極的な取り組み、ご意見があつて実現しました。参院選を前に、6月22日付で総務省や各政党、関係機関に周知の要望を提出しましたが、みなさんの地域の屋内演説会等で要約筆記が使われたケースがあれば、ぜひ教えてください。

政見放送で字幕がつかないのは、放送局は、字幕作成スタッフ、設備が不足していると説明しています。機材が高額で、特に地方局等では導入がまだなのだそうです。

地方局に字幕付与設備がないことは、災害時に身近な地域局の情報に字幕がつかない問題とリンクしており、当事者の生命や財産に関わる重要な問題です。継続して取り組んでいきましょう。

(小川 光彦理事 情報文化部部長)

<情報保障現状>

選挙の種類	衆議院 小選挙区	衆議院 比例代表	参議院 選挙区	都道府県 知事	参議院 比例代表
主体	候補者 届出政党	衆議院名簿 届出政党等	候補者	公職の候補者	参議院名簿 届出政党等
手話通訳	持込みビデオ に挿入可	可 (8条4項)	不可	可 (8条7項)	可 (8条4項)
字幕	持込みビデオ に挿入可	不可	不可	不可	可(H25通常 選挙から導入)

※表中の条項は、「政見放送及び経歴放送実施規程」（総務省資料から引用）

📌 第10回国際難聴者会議参加レポート

2016年のIFHOH（国際難聴者連盟）主催の標記会議は、HLAA（米国難聴者協会）との合同開催でした。場所は、ワシントンDC（連邦政府の特別行政区）で、ワークショップを含めたコンベンションが開催されました。

現在、全難聴国際部が「報告書」作成の動きを進めていますが、それに先立ち、当会監事である茨城県協会齋藤理事長にレポートをお願いしました。

第10回国際難聴者会議に参加して（茨城県中途失聴・難聴者協会理事長 齋藤 正昭）

平成28年6月21日から27日まで、米国ワシントンDCで行なわれた会議概要を報告します。

6月21日。成田空港に集合し、結団式を行った。15名の参加者の内、半数が初対面で名刺交換をした。その後13時間のフライト。不眠不安はあったが飛行機の揺れもなく無事晴れ渡ったワシントンダレス空港に到着した。天候は日本で言えば仙台あたりに似ていて、空気は違和感がなかった。

6月22日。全難聴理事長、事務局長は国際難聴者協会の総会に参加。一般の参加者はフリー行動日で、自分は「硫黄島記念碑」へ。5人の兵士のブロンズ像に圧倒される。その後、アーリントン国立墓地、リンカーン記念館、ホワイトハウス、ギャロデット大学を見学。

6月23日。午前より大ホールで2つの基調講演があった。



画像提供：齋藤理事長

基調講演①は、米国医学研究機構報告として「成人へのアクセシブル、アフォーダブルな聞こえの健康ケア」について。難聴は、年齢とともに増え、個人のニーズを再優先し、社会的責任を認識する。聞こえの専門家の総合的な支援と、コミュニケーションだけではなく生活も大事だとして、12項目の提案をされた。

基調講演②。アクセシブルコミュニケーションについて。失聴は高齢者にとって大きな社会的問題で、米国でも増加している。補聴器の自己負担が多額で、公的医療保険制度からのサポートを希望する。また、費用の軽減及び、補聴器のプログラミングの簡易化が提案され、これに矢継ぎ早に質問が寄せられ、補聴器に関心があることが伺われた。

午後は、911アクセスサービスについて。警察・消防・救急の緊急通報用電話で、テレビを通じての話者とコミュニケーションを取る様子が紹介された。

6月24日。午前はリサーチシンポジウム。HLAA全米難聴者協会理事のフランクリン博士による「難聴に対するアプローチ」70代以上の3分の2が失聴・難聴であるがそのうち20%しか人工内耳を使っていない。蝸牛の有毛細胞について、新規タンパク質の遺伝子導入により有毛細胞増加の効果があったとのこと。しかし、まだ研究と時間が必要。また幹細胞を用いた研究についても紹介があった。

聴覚障害のある入院患者について、看護師を含めたコミュニケーションの重要性について述べられた。アンプを利用すること。薬局に磁気ループ（ヒアリングループ）を設置してほしいなど意見が出された。

午後のワークショップではCS統一機構理事長の大嶋氏による「IPTVの期待」というテーマで行なわれた。このワークショップ冒頭に発言者として登壇した新谷理事長は「現在テレビ、インターネットを含めて映像配信への字幕付与への対応が遅れている。IPTV字幕製作のための、字幕製作者の養成、資格化、ガイドライン作りが整備の課題である。」と述べた。

IPTVとは、光回線を用いたIPネットワークで、映像コンテンツを配信するマルチメディアである。日本の企画がH702として世界基準として採択された。大嶋氏はCS統一機構として、セットボックスの生産販売をすることを強調した。

6月25日。最終日。ネパール難聴者協会のニータ氏による「難聴と災害について」の話。15年4月15日の地震では、ネパール国民の3分の1が被災した。8千人が死亡。49万世帯以上が全壊。メディアとマスコミのアクセスが途絶え、難聴者、ろう者にとって情報が得られなかった。しかし、ネパールには家族的コミュニティがあり、様々な支援があったが、あらためて災害向けシステムが必要とされる。ニータ氏に続いて瀬谷部長は、東日本大震災を振り返り、その復興に関する発表を行った。震災発生時の情報収集はラジオが有効であったが、携帯の文字情報は難聴者にとって情報アクセスの重要なツールである。しかし、携帯基地の被害は深刻であった。サテライト通信、自家発電、その上で日常的な難聴者と地域のコミュニティ維持が不可欠と述べた。

この日の最後に参加したワークショップでは、ギャローデット大学のLarry Medwetsky氏による「補聴器で音の世界に近づくこと」について。補聴器は、3ヶ月毎に新しい技術が発表される。磁気ループ、赤外線、電話通話についてなど経験に基づく説明があった。

最終日に行なわれたイブニングバンケットでは、交流が行なわれたが、要約筆記などなく途中で帰った人も多かった。

6月26日。ダレス国際空港出国の際、出国検査は骨まで検視されるようで厳重を極めた。

以上。

理事の動き（7/1～7/30）

- 7月13日 ジェイテック面談(小川)
- 7月15日 四団体連絡会(新谷、佐野)
- 7月20日 第8期 MASC 総会(小川)
- 7月22日 中央本部事務局会議(佐野)
- 7月22日 中央本部拡大本部会議(新谷、佐野)
- 7月22日 字幕付きCM制作作業現場見学(小川)
- 7月25日 手話言語法、情報コミュニケーション法と読書バリアフリー法についての意見交換会(新谷)
- 7月26日 JDF 幹事会(新谷)
- 7月28日 第1回電気通信アクセシビリティ標準化検討WG(小川)
- 7月29日 川崎市聴覚障害者情報文化センター要約筆記者養成講座(新谷)

↑ 事務局報告

- 7月1日 機関誌「難聴者の明日」172号発送
- 7月6日 株式会社CU
- 7月15日 四団体連絡会
- 7月15日 複合機導入、セッティング
- 7月25日 シーズ・ニーズマッチング事業運営会議
- 7月30日 全難聴だより No. 98 発行

《予定》

- 8月1日 厚労省面談、JDF 国際委員会
- 8月8日 補聴器販売者技能向上研修事業委員会
- 8月9日 (JDF) 郵便制度に関する四者協議
- 8月13日 全難聴、全要研定期協議
- 8月19日 全通研研究集会
- 8月22日 第1回消費生活用製品の音声案内 JIS 検討委員会
- 8月26日 JDF 権利条約推進委員会
- 8月30日 JDF 幹事会

※全難聴事務所夏季休暇：8月13日～16日

東京芸術劇場磁気ループ作動対象公演について

東京池袋にある「東京芸術劇場」には、4つの劇場があり、その全てに磁気ループが設置され、このループの聞こえについて、全難聴が確認をした経緯は、全難聴便り 89号でお知らせしました。

この7月より、東京芸術劇場ホームページ内に、「磁気ループ作動対象公演について」というページが開設され、磁気ループを試験作動させている公演名が公開されています。

10月にプレイハウスで上演されます「あの大鴉、さえも」と「かもめ」という公演については、字幕機サービスとも併用できるとのことです。

これ以外に毎月開かれている「ランチタイム・パイプオルガンコンサート」でも、磁気ループが使用できます。一番大きなコンサートホールです。

磁気ループカバーエリアの詳細については、東京芸術劇場ボックスオフィスにお問い合わせください。

<http://www.geigeki.jp/fukushi/hearingloop.html>